

テーマ 『スマホ時代を生きる君たちのために』

講師 竹内 和雄

1 授業の概略

高度情報化社会を生き抜いていく高校生とともに、ネットを切り口に、これからの生き方、考え方について考えます。確固たる正解があるわけではないので、それぞれ主体的に考えてもらいたい。最近は Unicef ともかかわっていますが、国際的な問題になりつつあります。



2 所属部・科等

環境人間学部

3 自己紹介

教育現場に25年（中学校教員20年，教育行政5年）いたあと，大学教員として10年目です。最近は文部科学省や総務省，内閣府などの有識者会議の座長，委員などや，各自治体の審議会等多くかかわっています。そういう状況なので，子どもを取り巻く環境について把握しやすい立場にいます。これまで，附属高校の一部の生徒（情報モラル等）と一緒に，国のフォーラムやNHKの番組づくりに関わっています。附属生と関わる方々は，附属生のレベルの高さに驚いています。

4 専攻分野

「困っている子どもへの対応方法」が専門。

5 研究内容

最近は「子どもとネット問題」「いじめ問題」に関わることが多いです。

6 附属高生にメッセージ

今回は，スマホについて学ぶ授業ですが，「スマホ」に焦点を当てて，自分の生き方やこれからについてともに考える機会にしたいです。事前アンケートの結果から，附属生の中で「ネット依存」の疑いがある割合は，全国平均をはるかに上回っていることがわかっています。自分事として考えなければいけない人が多いのかもしれませんが，コロナ禍のため避けては通れないことかもしれません。

1年生高大連携授業 7月14日(水)

題目「スマホ時代を生きる君たちのために」
兵庫県立大学環境人間学部 人間形成コース
教授 竹内 和雄 先生

1. 授業内容

1) 概要

スマホのトラブルから発展する問題やこれからのインターネットとの付き合い方、社会問題について教えていただいた。

2) 具体的な内容

SNS上での問題とトラブル

・世間と県大附属生のネット依存率の比較→県大附属生は校則が緩く、身近にネット環境があるから

・個人情報の漏洩→写真につけたコメントや背景から、住所や名前・年齢が特定される

・文面での連絡→正確に言葉の意味が伝わらず、誤解からいじめに進展する

インターネットとの付き合い方

・身の回りの人と規約を設ける→トラブルの発生率を抑える

・文章の言葉選びに気を付ける→誤解を防ぎ、いじめに原因を作らない

・ネット上で知り合った人を信用しすぎない→相手に悪意があっても、事件や事故を未然に防げる

科学技術発展の発展に伴う変化

職業

10年後もある仕事

- ・医師
- ・弁護士
- ・デパートの店員

ない仕事

- ・タクシー運転手
- ・スーパーの店員
- ・税理士

Point: 特別な技術がいる仕事は残り、単純・長時間の仕事は機械がこなす

その他

- ・スマホでドローン操作して肥料をまく
 - ・カメラ内蔵のコンタクトレンズ
 - ・バーチャル映像(立体)の実現
- etc...

“夢物語”が3年間で半分以上実現!!

今不可能だとされている事も、思いがけない発展で近い未来に実現できるかもしれません

2. 感想

・これからの時代は実力社会で、AIによって行われる仕事が増えるため、将来について計画的に進め、積極的に参加していかなければならない。

・“ネットは正しく怖がって賢く使おう!”をモットーに、冷静な判断とネットへの理解を意識することが大切。

記録者: 1年1組生徒

